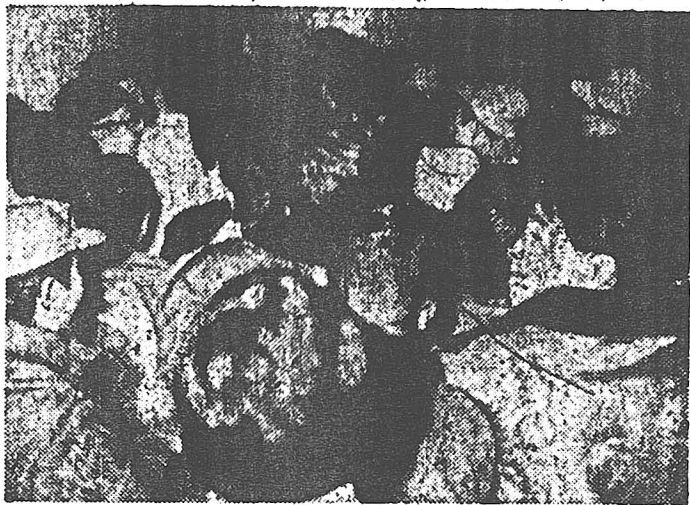


川本さんら押し問答

告発する
会員社員と「乱闘騒ぎ」

チッソ本社

水俣病補償の自主交渉を求めて
東京丸の内チッソ本社（東京）
ビル四階へ前にすり込んで
後話し合い再開と断言資金二十万



チッソ社員と告発する会員のもみあい（チッソ本社で）

円の不案件支払いを求めて同本社に乗り込んだ。だが、話し合いはもつれ、原告側を支援して乗り込んだ水俣病を告発する会員とチッソ社員が「乱闘騒ぎ」を起こす事となった。

同日午後登時半すぎ、参院議員の宮川幸子さん、評論家松岡洋子さん、作家など、いまださん、評論家吉野源三郎さんら文化人グループ十三人が、すり込みの原告側の見舞いに訪れ、三十分ほど原告側と話し合ったあと、「加害者のチッソと被害者の患者・家族がまず話し合い、つぐないについて合意に達するよう努力するのは当然のことだ。即刻自主的な交渉を開始すべきだ」というチッソに対する申し入れ書を持って、ビル四階の同社に向いた。

ところがチッソは社員約二百人を動員して、四階エレベーターホールや階段口にビケを張っており、文化人グループもエレベーター

ホールに押し止められた。このあと原告側が交渉再開、断言資金二十万円の支払い要求に対する返答を求めて四階に行ったが、チッソ側は「返答はここで」と同ホール内に押し止めた。この間にビルの前で集会を開いていた原告、東京などを中心とする水俣病を告発する会員約百五十人が、階段を駆けのぼって四階への突入をはかり、ビケのチッソ社員と押し合いへしあいのすき、一回りすきビケを突破してエレベーターホー

う。場所はチッソが指定するところではない。支援団体もそこには行かない」と対案を出した。久我常務は「いったん協議する」として社内へ引き揚げたが、五時すぎ「やはり一月三日水俣で話し合い」という返答を伝え「こういう状態がつづき、東京ビル前でのすり込みなどがある限り、東京ではいっさい話し合いに応じられない」として断を立った。

このため久我常務を引き揚げさせようとするチッソ社員と、これを引き止めようとする告発する会員の間に乱闘が起き、久我常務はメガネを飛ばされ、ネクタイを引っぱられて、同ホール内をこつこつと回され、双方がなぐり合う騒動もあつた。このもみあいと乱闘は五分ほどでおさまったが、告発する会員たちは再びホール内にすり込み込んだ。チッソ社員はこれを「ボウ技きにかかったが、川本さんが「これでチッソのやり口がみんなにわかった」という。チッソの言い分ではないが、不測の事態が起きるといけないので、これで引き揚げたい」と呼びかけたため、会員たちはスクラムを組みながら退去した。この乱闘騒ぎで数人のケガ人が出た。文化人グループはことほもなくこの事態の成り行きを見守っていた。

川本さんは「水俣では私たちは犯罪者あつかいだし、このままでは帰るに帰れない。チッソが具体的な誠意を示すまで戦いつづける」と言っている。（東京支社）

ル内にすり込んだ。

このあと久我チッソ常務がホールに乗り、原告側と話し合いに移ったが、常務は「こういう状態では東京では話し合いはできない。島田社長は九州に転地療養に行っており、健康も回復しつつあるので、一月三日水俣で話し合いたい」と述べ、原告側の要求を突っぱねた。「水俣での交渉では報道陣を入れない」という原告側の要求も拒んだ。さらに原告側や文化人グループの「こういう状態をなくしたら東京で話し合い」という質問にも「そういう約束はいっつも破られるので、信じられない」と答えた。二十万円の無条件支払いについては「中公審持ち込みを前提としたものではないが、その他の条件もあるので、それも一月三日に話し合い」と答えた。

こうしてやりとりが、告発する会員とチッソ社員の膠着がどひから中で続けられ四時五十分、原告側は「一月三日東京で話し合